人権啓発紙
輝きびと
人権=心のマーク
R8.11.1
No. 129
発行者　大津市政策調整部
人権・男女共同参画課
TEL 528-2791・FAX 527-6288

特集記事：人とつながり、形になり、みんなの居場所になる

ポスターの部

第49回（令和7年度）

わたしと人権 特選作品



坂本幼稚園　５歳児（当時）
村田　彩羽さん
「どんぐりさんたちのたのしいおまつり」



大石幼稚園　３歳児（当時）
廣澤　希碧さん
「みんなにこにこたのしいおんせん」



瀬田東小学校　２年（当時）
小川　夏生さん
「せかい中で一番なかよし」



瀬田北小学校　1年（当時）
松田　紬希さん
「たのしいおいもほり」



大津商業高等学校　２年（当時）
浅村　公一朗さん・横井　亜美さん
「手に余る程の優しさを」

詩の部

輝く星

富士見小学校　５年（当時）
穂積　沙良さん

一つの星が光っているのも綺麗だけど
たくさんの星が集まると
もっと綺麗で輝く
一人の人間が頑張っているのもすごいけど
たくさんの人間が力を合わせて
一つになっていると
もっとすごくなって輝く
たくさんの星が集まっていると
とても綺麗で輝いている
だけど
たくさんの人間が力を合わせて
一つとなっていると
何よりも輝いている

思いやり

和邇小学校　５年（当時）
多賀　沙良さん

思いやりってあたたかい
心がぽかぽかする
こたつの中に入っているみたい
身体全体につたわっているような温もり
みんなが思いやりで満たされるといいな
思いやりって不思議だな
不思議に心があたたかくなってくる
思いやりをしたら思いやりの心が育つんだ
だからぽかぽかするんだな
みんなの思いやりの心が育つといいな

標語の部

★大丈夫　こまったら　いつでも言って
★辛い気持ち　私に半分持たせて　半分こ
★パレットに　かがやく絵の具　君の色
★決めつけが　誰かの心　締め付ける
★見てみよう　その国じゃなく　その人を
★「お蔭様」「お互い様」はここち良し

瀬田小学校　２年（当時）山崎　蒼志さん
日吉台小学校　５年（当時）関　友莉那さん
田上小学校　５年（当時）髙野　由宇さん
北大路中学校　２年（当時）坂辻　杏莉さん
志賀中学校　３年（当時）東原　あいさん
仰　木　一般　小鑓　敏子さん



人とつながり、形になり、みんなの居場所になる

今号の特集は“地域で輝くひと”にスポットライトをあて、大津市桐生でフリースクール〈香こち-kokochi-〉を運営する重藤有里さんにお話を伺いました。

フリースクールのことはよく知らなかった教員時代

「小学校教員を退職し、フリースクールを始めた」と聞くと、教員時代から構想していたように思うかもしれません。しかし、重藤さん自身、退職した時にはフリースクールを始めるとは想像もしていませんでした。

小学校教員時代の重藤さんは教員という仕事が好きで、やりがいを感じていましたが、2人目の子どもが生まれ、近くに頼れる身内もいない中、仕事と子育てを両立することは想像以上に大変でした。「もっと教員の仕事に向き合いたい」という思いと、子育ての事情で仕事を休まざるを得ないもどかしさから、働き方を変えたいと考えるようになりました。

そんな中、育休中に趣味で学んでいたアロマの先生からの誘いがあったことで「アロマの教室をやってみたい」という思いも合わさり、2020年に退職。

退職後、アロマの教室やワークショップを開くと、重藤さんが元教員と知った参加者から子どもや学校について相談されることが増えていきました。

一人の中学生との出会い

ある日、知人を通じて「学校に行っていない中学生の勉強を見てほしい」と頼まれます。小学校教諭だった重藤さんは戸惑いながらも、引き受けることにしました。

週に1回、家庭を訪問してさまざまな教科の勉強を見る中、机に向かっていても寝てしまったり、そもそも家に訪問しても出会えない日もありました。

「ある時、『この子のために今必要なのは、勉強なんかな?』って思ったんです。今は勉強することよりも前に、大切なことがあるんじゃないかな、と」

これをきっかけに、フリースクールについて調べ始めました。教員時代、特別支援コーディネーターとして子どもや保護者の相談に乗っていた経験も重なり、「少人数で、子どものペースで過ごせる場所がもっとあれば」と思うようになりました。

そこから、他の施設を見学したり、ボランティアとして活動したりする一方、地域の保護者約120人にフリースクールに関するアンケートを実施。地域にフリースクールを求める声に加え、子どもが人と関わる力や社会性を持ってほしいという思いも多いと知りました。そして2022年、〈香こち〉がスタートします。

「来ない」という選択も大切に

最初の利用者となったのは、あの中学生でした。

「フリースクールをこれから立ち上げようとしている時、『こういうところを作ろうと思ってるけど、来る？』って聞いたら、『行かへん』って。『それでいいで』って言いました」

最初は無理に誘わず、答えを受け止めました。その後、その子が高校受験を考え始めた時と〈香こち〉のオープンが重なり、「ここで勉強したら」と声をかけると、通い始めるようになりました。

その後、高校に合格し、友達ができ、アルバイトを経験し、大学生になりました。今でも時々イベントの手伝いに来ることもあります。

「こんな風に成長するんだなって。出会った時には考えられなかったです。うれしかったですね」

〝待つ〟ことで育つ、見えてくる、子どもの力

重藤さんが特に大切にしているのが、〝待つ〟ことです。

活動に参加するかどうかも自分で決める。最初は「やらない」と言って遠くから見ているだけだった子が、何度か見ているうちに参加してみることも。

「一つ一つ、時間をかけてでも自分で選んで決めていく経験が大事。ちゃんと選択する機会をつくることが、将来、自分で生きていく力につながると思います。できないとか頑張れない時間があっても、待つ。気持ちが元気になったり、大丈夫という思いが出てくると、想像を超えるくらいのすごいパワーを発揮します」

人とつながり、次の一歩へ

「香こち」では、英語、体づくり、ものづくり、理科実験、川遊びなど、スタッフそれぞれの得意分野を活かした様々な活動が行われています。

「スタッフみんなの得意を活かしてもらっていて、私ができないことをお願いしています」

活動する場所も、人とのつながりから生まれました。「フリースクールをやりたい！」と周囲に話し続けたことが、現在の場所との出会いにつながりました。

今は、〈香こち〉の新しい活動として、保護者が気軽に集える〝むすびかふぇ 結（ゆう）〟を開催しています。

「子どもや保護者が気軽に立ち寄れて、一息つける場所にしていきたいです。〈香こち〉に通う中学生が接客などを経験する機会にもしています。そういう経験が、アルバイトをしてみようという思いや、新たな一歩を踏み出すきっかけにつながればと願っています」

育休中に始めたアロマから、一人の中学生と出会い、始まった重藤さんの一歩。人とのつながりによって活動が形になっていきました。

「今まで何となく課題に思っていたことに対して、これとこれを掛け合わせると新しいことが生まれたり、課題解決につながったりするかもって考えてる時が楽しい」と笑顔で話す重藤さん。これからも、人とのつながりの中から、新しい一歩が生まれていきます。

※フリースクールとは
不登校など様々な理由で学校に通えない子どもたちに、それぞれの過ごし方や多様な機会を提供する民間の「居場所・学びの場」です。勉強や体験活動など、施設によって様々な特色があり、一定の要件を満たせば、フリースクールでの活動を在籍校の出席と認める制度の活用も広がっています。大津市では、行政、学校、民間が連携する「スクラム会議」を定期開催し、地域全体で子どもを支える多様な環境づくりを進めています。

香こち-kokochi-

活動場所
滋賀県大津市桐生二丁目11-12
古川与助商店「ギャラリー与助」

ホームページアドレス
https://kokochi2022shiga.com/
ホームページ

電話番号
080-1715-1334



『排除が差別を生む』

この言葉は、先日大津市にて人権講座があり、その時の講師の国立ハンセン病資料館の占部好子さんが話された言葉です。確かに、多くの人は「差別」という言葉を嫌い、「私は差別などをしない人間だ」と思っているようです。が、どうでしょうか、「排除」ということは、多くの人が無意識に罪悪感なしにおこなっていると思われます。自分の考えと違う人、身体的能力の違う人などを無意識的に排除しているようです。そして、排除することを気づかない。私たちの身の回りでも起こっていることではないでしょうか。

「人権を守る大津市民の会」

この会が結成されてから50年が経ちました。50年ほど前、日本社会は人権問題で大きく揺れ動いていました。そんなときに、人権をテーマにした市民劇を作ろうという動きがあり、「慟哭」「背負われた如来」（原作：山田哲二郎さん）といった劇を市民の手で創り上げて大成功を収めました。この劇の上演をきっかけにして、大津市民の間で、人権意識が高まり、この「会」が創り上げられました。所属しているのは、自治連合会を筆頭に、商工会、教育委員会、労働団体、各団体や個人などです。活動としては、「わたしと人権」という小冊子の作成で、広く幼稚園、小学校・中学校・高校をはじめ一般からも、ポスター、詩、作文、標語等を集めたり、駅頭・街頭での啓発を行ったりしています。二月には、表彰式も実施されます。私たちは、人権問題への取り組みに対して、先人達の思いを忘れることなく、大津市に人権意識の高まりを創り上げて行く努力を忘れてはならないでしょう。

あとがき

本号の特集記事では、インタビュー記事を掲載いたしました。記事の感想や、「自分の周りにもこんな人がいる」といったご紹介をいただけましたら、編集委員会でも取り上げて参考にさせていただきます。



ご意見やご感想は
〒520-0047
（大津市浜大津四丁目1-1明日都浜大津1階）
大津市 政策調整部 人権・男女共同参画課
（☎528-2791）
（mail：otsu1006@city.otsu.lg.jp）まで

第50回

「わたしと人権」作品を募集しています

人権を守る大津市民の会では「人権の尊重された明るい社会」をめざし、作文、詩、標語、ポスター等の募集を行っています。女性、子ども、高齢者、障がい者、同和問題、外国人などの人権にかかわる問題をぜひ作品にしてご応募ください！

1 応募要領

⑴応募締切

令和８年12月８日(火)

⑵応募資格

大津市に在住・在学・在勤の方
市内の保・幼・こ・小・中・高校生の個人の作品については、学校園を通してご応募ください。ただし、高校生は直接応募していただいても構いません。

⑶募集作品（未発表の作品に限ります。）

部　門	応募にあたって注意すること等
作　文 詩	原稿用紙に記入(1,200字以内) 内容は、「感想文」・「主張」・「体験記」・「意見」など
標　語	ハガキまたは、ハガキ大の用紙もしくは下記二次元コードよりご応募ください。
ポスター	画用紙（４つ切）。作品には、**人権の尊重された明るい社会にふさわしい言葉**を添えてください。
その他	**パネル1枚（概ね120cm×180cm）以内でパネルに掲示可能な作品** 人権尊重をアピールするにふさわしい作品（集団作品など上記四部門以外）

「住所・氏名・タイトル・電話番号」を明記してください。

2 審査・発表

＊作品審査は令和８年12月下旬の予定。審査結果は公表し、入賞者には直接通知します。
＊特別賞・特選受賞者には賞状と記念品を、佳作受賞者には賞状を贈呈します。
＊特別賞受賞者には、「ほのぼの賞」・「すこやか賞」・「ふれあい賞」・「ときめき賞」・「さわやか賞」の各賞を授与し、表彰式で賞します。
＊入賞作品は、冊子「わたしと人権」や大津市のホームページ等で公表するとともに、様々な団体や機関の人権啓発活動の資料として活用します。公表する際には、作品、学校園名、学年、氏名(一般の方はお住まいの地域)が公表されますので、ご了承の上で応募してください。尚、作品の版権は大津市及び人権を守る大津市民の会に属しますのでご了承ください。
＊応募作品につきましては、原則返却いたしません。

3 送り先・問合わせ先

〒520－8575　大津市御陵町３番１号
大津市教育委員会事務局 生涯学習課内
「人権を守る大津市民の会」事務局
☎(直通)528－2635

標語の部
申込フォーム